

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
36	滋賀医科大学福祉保健医学講座
題名（原題／訳）	
Alcohol consumption and mortality in Japan: the Miyagi Cohort Study 日本におけるアルコール消費量と死亡率：宮城コホート研究	
執筆者	
Nakaya N, Kurashima K, Yamaguchi J, Ohkubo T, Nishino Y, Tsubono Y, Shibuya D, Fukudo S, Fukao A, Tsuji I, Hisamichi S.	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
J Epidemiol 2004; 14 Supple 1:S18-25.	
キーワード	
アルコール消費量、総死亡率、前向きコホート研究	
要 旨	
<p>宮城県の農村部住民を対象にしたコホート研究である。1990年に39,076人の40-69歳男女を対象に、自己記録式アンケート調査を実施し、11年間追跡した。質問項目は飲酒習慣を含む種々の生活習慣に関する調査であった。追跡期間中に1,879人が亡くなった。</p> <p>男性では、有意に禁酒者の死亡率が高かった。禁酒者の非飲酒者に対する相対危険度は、1.86であった。飲酒者では飲酒量が多くなるほど総死亡率は高くなった。この関係は1日あたり45.5g以内の純アルコール摂取量でも見られた。同様の結果は女性においても得られた。特に、若い男性ではその傾向は顕著であった。</p> <p>虚血性心疾患は飲酒とは負の関連があるが、宮城では虚血性心疾患よりも他の疾病の重みが強く、飲酒量に比例して総死亡率が高くなり危険度が増したのであると考えられる。</p>	